

大子町新庁舎建設設計業務プロポーザル
審 査 結 果

平成 30 年 6 月

大子町新庁舎建設設計業務プロポーザル選定委員会

1 特定の結果

最優秀者	株式会社	遠藤克彦建築研究所
優秀者	有限会社	ナスカ

2 選定委員会の構成

役職	氏名	所属等
委員長	松岡 拓公雄	亜細亜大学 都市創造学部 都市創造学科 教授
副委員長	熊澤 貴之	茨城大学 工学部 都市システム工学科 准教授
委員	阿久津 博史	茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合 大子支部 支部長
委員	岡村 教三	大子町区長会 会長
委員	中野 篤	大子町民生委員児童委員協議会 会長
委員	野内 恵子	前大子幼稚園長
委員	和田 宗介	大子町副町長
委員	深谷 雄一	大子町総務課長
委員	椎名 信一	大子町建設課長（～H30.3）
委員	藤田 隆彦	同上（H30.4～）

（順不同，敬称略）

3 経過報告

平成30年	3月27日（火）	プロポーザル公告
	4月2日（月）	第1回質問受付期限
	4月3日（火）	第1回質問に対する回答
	4月9日（月）	参加表明書提出期限
	4月12日（木）	一次審査及び審査結果通知
	4月23日（月）	第2回質問受付期限
	5月11日（金）	技術提案書等提出期限
	5月17日（木）	二次審査
	5月18日（金）	二次審査結果通知
	5月25日（金）	三次審査及び選定結果報告
	5月31日（木）	三次審査結果通知
	6月13日（水）	審査結果公表

4 評価結果

(1) 一次審査

一次審査では、設計事務所及び配置技術者の参加資格要件について、事務局による評価を行った結果、参加表明書が提出された16者全てから技術提案書の提出を求めることとしました。

(2) 二次審査

「大子町新庁舎建設基本構想・基本計画」に掲げた「新庁舎の整備方針」を踏まえ、「業務実施方針」及び「特定テーマに対する提案」が15者から提出されました。

二次審査では、選定委員による技術提案書の主観的評価に、設計事務所及び配置技術者の業務実績等を評価した客観的評価を合わせた採点結果により、プレゼンテーション・ヒアリングを依頼する6者を選定しました。

(3) 三次審査

三次審査では、二次審査で選定した6者によるプレゼンテーション及びヒアリングを実施し、業務に対する取組意欲、計画の理解度等について選定委員による評価を行い、そこに二次審査の評価を加味した総合的な評価により提案書等提出者の順位付けを行いました。

5 審査講評

16者の設計事務所がプロポーザルに参加していただき、大いに盛り上がったコンペとなりました。最終審査に残った6者はアトリエ系の建築家から大手設計事務所、地元の設計事務所と蓋を開けると優秀な経歴を持つ設計事務所ばかりでした。

各者共通していたのは場所の特性を読み込み、細長い土地の形状、高低差などを上手く生かしていることでした。また、町民との対話を前提とし、町と密に連携していく設計プロセスの提案も積極的でした。加えて、地元林業の活用で、内外装、構造と様々な場面での設計への提案がありました。中には林業育成にまで及ぶ町の将来まで見据えた提案もあり、どの案もそれぞれに特徴がありました。

最優秀者として選定された「株式会社 遠藤克彦建築研究所」は、町や広場と庁舎が川沿の土地に溶け込み、町民の生活や活動が、町からそのまま吸い込まれて行くような開放的なダイナミックなプランニング、考え方、設計プロセスの提案が高く評価されました。行政窓口など大きく包みこんだ町民のための空間、開放できる位置にある議場、自由に配置が編成できる点が魅力的で、将来の対応を

可能にしていると判断されました。

一方で、今後検討が必要な課題もあります。メインフロアは、浸水を考慮した高さで設定されていますが、大階段でのアクセスを含めた広場との連携は、高齢者にはきつい印象があります。

外観側面の巨大なルーバーによる被膜デザインは、大子地域の伝統的な構法である板倉構法にヒントを得ている点はすばらしいですが、断面が過大で、そのメンテナンスも容易ではないと思われます。また、耐候性には弱いので、この発想を内部で活用できないかなど、外部のダブルスキンの素材の更なる検討が必要になると考えられます。地場産材の木材活用をさらに考え、そのモデルになるような、大子町を将来支えるくらいの木材利用事業となることを目指してほしいですが、構造部分のコストが高くなるかなどの懸念事項はあります。しかし、町民との対話の中で、これらの課題を乗り越えた先にある力強い構成の建築が、まちのイメージリーダーとして牽引していく魅力があることから最優秀に選定されました。

優秀者として選定された「有限会社 ナスカ」は、周辺との関係や、敷地の高低差などを巧みに読み込んだプランニングと開放的な外観、またユニバーサルな内部空間が高く評価されました。内部の動きがファサードに表出し、見通しも良く、八溝杉の格子天井の大屋根が全体を覆い印象的で明るく、シンボリックな建築になることが予想されます。

一方、課題としては、寒暖差の激しい大子町の気候と、三層にわたる大きなガラスで囲まれた大空間が適合するのか、また、コストオーバーなどが懸念され惜しくも次点となりました。

その他の提案についても、最優秀者及び優秀者を上回る評価には至らなかったものの、各者の経験と技術に基づいた提案には素晴らしいものがありました。最終的には時間をかけ、考え方のバランスのとれた案が選定されました。ここに、本プロポーザルに参加され貴重な時間を費やして真摯に努力いただいた関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。

最後に、最優秀者となった設計業者には、町民や町の意見・要望に柔軟に対応し、持てる技術力を最大限に発揮され、町民に親しまれ、誇りとなる新庁舎の設計業務に御尽力されることを切に期待します。

平成30年6月11日

大子町新庁舎建設設計業務プロポーザル選定委員会
委員長 松岡 拓公雄